令和４年度神奈川県美しい環境づくり推進協議会　議事録

令和４年１月27日（金）　14:00～16:00
一般財団法人シルクセンター国際貿易観光会館
地下１階　中会議室

（事務局長：矢板資源循環推進課長）
定刻となりましたので、ただ今から、令和４年度神奈川県美しい環境づくり推進協議会を開催いたします。本日はお忙しい中、お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。
私は、当協議会の事務局長を務めます、神奈川県環境農政局環境部資源循環推進課長の矢板と申します。どうぞよろしくお願いいたします。
本日は、神奈川県美しい環境づくり推進協議会傍聴要領におきまして、協議会を公開とさせていただいております。併せて、会議記録の作成の際には、発言された委員の氏名を記載させていただくこととしておりますので、よろしくお願いいたします。
それでは、開会にあたりまして、会長の長谷川環境部長よりご挨拶申し上げます。

（長谷川会長）
＜あいさつ＞（省略）

（事務局長：矢板資源循環推進課長）
それでは、議事に入ります前に、委員の皆様をご紹介させていただきます。
＜委員紹介＞（省略）

また、会長のあいさつにもありましたとおり、本日はクリーン活動の実施団体から２名ご参加いただいておりますので、ご紹介をさせていただきます。
＜豊田氏及び河合氏紹介＞

（長谷川会長）
さきほどのあいさつでも申し上げましたけれども、今回３年ぶりに皆様にお集まりいただいての開催となりますので、委員の皆様、そして豊田様と河合様からお一人ずつ、ご自身と日ごろの活動についてご紹介いただければと思います。

（若野委員）
湘南海岸をきれいにする会の若野です。当会は、湘南海岸、主に二宮から藤沢までのボーイスカウト、ガールスカウトが主体となって活動をしています。
啓蒙活動としては、海に来られる観光客の方々、遊びに来られる方々にごみを持ち帰りましょうと呼びかける活動を軸としており、５月から７月にかけての時期を中心に実施しています。
昨年で40周年を迎えまして、記念事業としましては茅ヶ崎の柳島の下水処理場と宮ケ瀬ダムの放水の見学を行いました。
夏の終わりには、散らばったごみを片付けようと清掃活動を行いました。皆さんきれいにやっ

ていただいているのですが、プラスチックごみは分解されてバラバラになっているので、人海作戦でないと取れないという状況で、やはり人でないとできない部分もあるのだなと感じています。今後とも、そういう部分を推進していきたいと思います。

（黒田委員）

小田急グループの黒田でございます。私は広報・環境部におりまして、そのうちの環境の担当をしております。具体的には、小田急グループでのＣＯ２排出量が2013年度には41万t出ておりまして、それを国の目標でもある2030年度に46％減、2050年度にゼロ、これを目指しましょうということで、日々具体的な活動を行っております。

それと、環境施策のひとつとして自然保全を掲げておりまして、小田急沿線も緑の多い地域ばかりですので、それがきれいに保たれて、将来世代に引き継がれるというのが、私たちにとっても、地域の方たちにとってもかけがえのないものだと思っておりまして、そのような保護に対する活動も力をいれてやっているところです。

電車自体はエコな乗り物で、排出するＣＯ２は他の乗り物に比べると少ないと言われていますが、それでも大量の電気を使っていますので、ＣＯ２クリーンの電気を調達したり、省エネをしたりしてＣＯ２をなるべく排出しないよう努力しているところでございます。

（松浦委員）

かながわ海岸美化財団の松浦と申します。

かながわ海岸美化財団は、1991年４月に神奈川県と相模湾沿岸の13市町によって設立されました。今年で31年が過ぎたところですが、非常に認知度が低くて、私どもの事務所があります茅ヶ崎市でビーチクリーンをしていらっしゃる方でも、「私は毎日ビーチクリーンしているけれど、そういう団体があるのを知りませんでした。」と言われてしまうくらいで、私どものＰＲ不足だと思っていますが、非常に残念なことだと思っています。

私どもの事業としましては、横須賀市の走水海岸から湯河原町の湯河原海岸までの全長150㎞の自然海岸の海岸清掃と、海岸をきれいにするだけではなくて捨てないことが一番のごみ拾いということでの海岸美化啓発、それと神奈川県では非常に多くの方がボランティアでビーチクリーンをしてくださっていますので、そのビーチクリーンボランティア様の支援、そして31年に渡る海岸清掃でいろいろ調査、研究したものをまとめて皆様にＰＲする、そういった４つの事業をやっております。

本当にボランティアの皆様には、ご協力をいただいておりますので、引き続きよろしくお願いいたします。

（西　委員）

県央地域の綾瀬市や座間市あたりで活動しておりますＮＰＯ法人ふるさと環境市民の代表をしております。私たちも1995年から、春と秋の２回、目久尻川でクリーンアップ大作戦というのをしておりまして、昨年の11月に表彰していただきました。

これからも子供たちの環境学習等、それから地域の川づくりということでやっていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

（鷲尾委員）

私は神奈川新聞社に勤めております。本社は太田町にあり、そこには事務的な機能しかないのですが、昨今の新型コロナウイルス感染症の影響でオフィス改革をしまして、本来４フロアあったところを３フロアに縮小した際に、大量のごみが出てきました。本社で働き出して16年ぐらい経ちますけれども、その間に溜まったごみなどが蓄積されていることを、オフィスの改革をしたことによって実感しましたので、極力ごみが生まれないようなオフィス改善に今回取組みました。

それから新聞社ですので、紙の新聞を毎日発行しております。正確にいうとあまり環境によろしくないようなものを毎日発行しているわけですけれども、そのような中で、綾瀬市の工場では、今から20年前ぐらい前に環境ＩＳＯを取得しました。現在は２，３年前に返上していますが、その間に学んだことを基に、環境負荷低減ということを毎年毎年取り組んでおります。いかにＣＯ２を減らすかとか、紙は発行しますけれども、その分いわゆる無駄な紙である損紙をどれだけ減らせられるかとか、ＩＳＯを返上した今でもそのような取組みを続けております。

また、電気も大量に消費します。万が一に備えて自家発電などもあり、それは重油で動かします。綾瀬市はたまに瞬間停電があり、新聞が発行できないと困るので、そのようないざというときのために備えていますが、重油を燃やすと空気を汚すということもありますので、そこをいかに代替品というか、代替して取り組めるかということも今検討している最中でございます。

（小日山委員）

神奈川県下19市で組織しております神奈川県都市清掃行政協議会というところで、輪番で会長を務めております中で今回機会をいただきました。

私は大和市の環境管理センターの所長兼廃棄物対策課長でございまして、清掃工場から実際の収集、資源の回収、中間処理、一通りのことをやっているというふうに御理解いただければと思います。

プラスチックの中間処理も私どもの工場で行っており、現に集まってくるプラスチックを毎日見ているわけですけれども、市町村の段階に至っては、そこからまた分別して処理をするのは非常に難しいというのを実感しております。

ぜひ、国の体制として、川でいえば川上の方で、もう少し処理をしやすいプラスチックの体制にならないかなといつも考えております。よろしくお願いいたします。

（小池委員）

神奈川県町村清掃行政協議会会長の小池です。小日山委員と同じく、輪番制で今回会長ということで、その立場で出席させていただいております。

私は愛川町の環境経済部環境課長ということで、環境課が取り扱っている所掌事務であります自然環境、住環境そして廃棄物から、おそらく環境問題といわれる全てを一手に担っております。異動以来、日々新しい問題や課題が様々ございまして、なかなかその対応をすることが難しいという状況です。

廃棄物行政の方で申し上げますと、愛川町は現在、焼却を停止している状況でございまして、燃やすごみにつきましては、厚木市の環境センターの方で燃やしていただいているという状況です。

現在、厚木市と清川村の３市町村で、広域処理に向けた組合を設立しており、本年度は中間処理施設の建設着工に至っています。令和７年度の12月の焼却開始を目指して、３市町村で頑張っているところでございます。

愛川町はそのような状況ですので、焼却に関する重油の使用量や二酸化炭素の排出量については、他の焼却設備をお持ちの自治体よりは少ないと考えておりますが、し尿処理については愛川町単独で処理しており、脱水した汚泥を焼却しなければならないという事情もあり、そのための焼却炉は使っている状況です。

このし尿処理施設につきましては、建てたときは愛川町では下水がそれほど普及してない状況で、当時は約12,000㎏収集していたのですが、それが今は３分の１程度になっていますので、今後その施設をどのように使い続けていくか検討していく必要があると考えています。

また、愛川町では、ペットボトルの資源化処理の業者委託をしているのですが、その業者委託をしている先の方がサントリーと付き合いがあるということで、これからの話にはなりますが、ペットボトルの水平リサイクルについての協定を締結するということで、今鋭意進めているところでございます。

ごみの減量はもちろんですが、ごみを減らすためには資源化率を向上させていかなければならないと考えておりますので、今後資源化に向けて頑張っていきたいと思っております。

（野田委員）

私はこの県議会という政治の世界に入ってまだ４年になります。

実はもともと1998年に持続可能な社会を目指して起業し、ゼロウェイストをテーマに、誰もが必要とする食を中心としたエコライフということで事業展開をしていました。そこでは、量り売りや、ごみになるようなプラスチックを使わないといったような事業を展開していて、その中でいろいろなＮＰＯ、ＮＧＯ、市民活動と関わるようになりました。

ただ、そこから20年近く経っても、日本の状況は正直あまり変わらず、世界に対してもいろいろな部分で後れを感じましたので、４年前に、経験はなかったのですが、立候補をして現在に至っております。

そして、議員になってからは、こちらの協議会も令和元年度から参加をさせていただいておりますし、委員会も希望して環境の方に２年ほど連続で入らせていただき、「循環」ということをテーマに質疑をさせていただいております。

行政の取組みも非常に重要だと感じているのですけれども、国民県民一人一人の意識啓発が非常に重要だと感じております。昨年、私は個人的に映画の上映会等をしまして、市民の皆様と、どう意識を高めて、何ができるかという具体的な次へのアクションを考えるような活動もやっております。

ごみを出さないということ、とはいえ社会活動の営みの中ではごみは出ますので、そこをいかにリサイクルできるかということ、先ほどおっしゃったように、日本では今ペットボトルに関しては熱焼却が非常に多いので、そこにいろいろな課題が正直見えていると思っております。そこは国の方で動いていただくとか、行政と私たちでできることを取り組んでいきたいと思っております。

（豊田委員）

ＮＰＯ法人海の森・山の森事務局の理事長の豊田と申します。私たちのＮＰＯは、来週の水曜日でちょうど12年目を迎え、丸11年活動をしてきております。

そもそも私は本業が写真家で、特に海の中をずっと撮ってきており、水中カメラマンとして40余年海に潜っております。湘南、三浦の辺りの海をずっと潜っておりまして、実際のプラスチックごみを昔から見ており、17,8年くらい前からプラスチックが段々と増えてきている危機感を感じるようになりましたので、いろいろと活動をし、ＮＰＯを立ち上げ、今に至っております。

活動自体は、神奈川県の中では茅ヶ崎沖と城ヶ島沖がプラスチックのごみの拠点というか、大きなポイントになるだろうということが前もって見えておりましたので、10年前からボランティアダイバーを集めて、毎年茅ヶ崎沖と城ヶ島沖の海底を潜っては、どのようなプラごみがあるのか、そしてどのように海底に沈んでいるかということを、回収もしながら、写真に撮り記録に残してきております。

2018年の10月に茅ヶ崎沖を潜ったときに、海底に堆積している大量のプラごみを発見し、その写真を撮って神奈川新聞さんに大きく扱っていただいた経緯もあります。

2020年には、コロナ禍でイベントとかが開けなくなる中で、このまま活動を停止したり辞めたりするのは、ばかばかしいと思い、４月から私たち３人だけで、自己責任でこのごみ拾いを何とか続けていこうということで、「３匹のおっさん　プラゴミバスターズ」というチームを作りまして、神奈川県西の端の湯河原から出発し、毎月１回ずつ一筆書きのように、歩きながらごみ拾いをすることとしました。地図上では435㎞あるうちの今210㎞あたりの、三浦半島の東京湾側を周った雨崎という、三浦海岸の端のところまで到達しておりまして、今までに回収した主にプラスチックのごみは1,650㎏あります。ほとんど全てのごみは、かながわ海岸美化財団に処理をお願いして協力していただいており、最終的には2024年度中にゴールの多摩川河口に到達するのではないかと考えております。

最初は面白半分でやっていたのですけれども、13の市町村を経由してずっと歩く中で、どこにどういうプラごみがどのように分布して、どういう状態なのかということがデータとして全部見えてきました。このデータをまとめておりまして、近いうちにこの協議会を経由するか、あるいは何らかの形で神奈川県と三浦市と横須賀市に提言をさせていただこうと考えております。

また、ずっと海の中や海岸の他、横浜市内を流れております大岡川という川から海に流れ出ないようにという活動も続けております。そして、ずっと私たちが続けてきたそれら３つを総合したものを、５年前から環境出前授業として小学校の子どもたちへ伝えております。今年は総合学習の関係では年間30クラスを受け持っておりまして、各クラス１回きりではなく、最低でも３回、４回と行っており、もしかしたら小学校の先生になってしまっているのではないかと勘違いするくらいしております。

今年の３月３日には、いろいろと関わってきた小学校の子どもたちのやってきたことを、学校内だけではなくて公にＰＲしてもらう場として「子ども環境サミット」というイベントを企画しております。これは、みなとみらいにある京セラさんの大きな素晴らしい会議室を借りられることになり、今いろいろと計画を立てております。ぜひこの協議会の皆様も、オンラインでも入れますし、実際の場でも聞くことができますので、もしお時間がありましたら、いらしていただければと思います。よろしくお願いいたします。

（河合委員）

さむかわエコネットといっておりますが、正式の名称は「寒川環境町民会議」という会でして、事業者も含めた寒川町にいらっしゃる方による会議ですが、実際は会社の関係の方はあまり入っていませんので、町民でやっているような感じです。

2005年に設立しましたので、17,8年になり、会議の事務局は寒川町の環境課が務めております。もともとの目的は寒川町の環境基本計画の実行に関することを考えて実施するためで、町のためという感じの団体ですから、事務局は寒川町が務めているというわけです。

色々なことをやっておりますが、特に環境美化のことに関しては、２つのことをやっております。先ほど西さんがおっしゃられた目久尻川の清掃を、私どもも年間だいたい８回やっております。それから、年２回、小出川の川底をきれいにするという活動をしております。

直近でいいますと１月21日に目久尻川を清掃したのですが、一般の方と会員の方を合わせてだいたい30人くらいずつが毎回集まります。

ごみの量は変動しますが、直近の１月21日では可燃ごみが125kg、不燃ごみが10kgでして、これが多いのか少ないのかというところです。当初のころからすれば相当減っていますが、最近は減ってきてなく、横ばいとなっております。

そもそもなぜ私がこの団体に入ったかといいますと、定年退職を機に大磯の釣り保存会に誘われまして、大磯でキスの投げ釣りを始めましたところ、不思議なことにその会では月例会の釣りを始める前に全員揃ってごみ拾いをしていました。そして、30分間ごみ拾いをしてから釣りをします。そうするとペットボトルがいっぱいあり、拾っていてこれはどこから来るのかというと、川から来るという話になりまして、私は釣りをやるために海に行くのに、そこにあるごみは川からやってくるというのは困ったものだと思いました。そのような中、たまたま寒川町の案内にさむかわエコネットが目久尻川でごみ拾いをするというものがありまして、私も釣りをするから川をきれいにする責任があると思い、また、そうしないと相模川を通って海岸にごみが行ってしまうので、それはまずいと感じ、始めたというのがきっかけになります。

未だにごみはなかなか減りません。特徴としまして風で飛んで行ったようなごみはペットボトルが多いのですけれども、どうしてもそうじゃないごみがあります。それは買い物袋、ビニール袋にまとめてごみを入れたものや、テレビがあったり、ディスプレイがあったり、自転車があったり、どう見たって上から投げ捨てたとしか思えないものがいっぱいあります。このようなものは減りつつありますけれども、なくならない。そのような状況で、いたちごっこで困ったなと思いながらやっているのが現状です。あと小出川は、特徴的なのは、なぜか古着下着や農業資材の捨てられたものが多い状況です。

（長谷川会長）

皆様ありがとうございました。

それでは、議題に入らせていただきます。お配りした次第に従って進めたいと思います。

まずは、次第の「３美化活動の推進及び不法投棄対策の取組みについて」、それと「４かながわプラごみゼロ宣言の関連事業について」、これらは関連しますので、一括して説明させていただき、その後意見を頂くという形で進めさせていただきます。

それでは、まず美化活動の推進及び不法投棄対策の取組みについて、事務局から資料の説明をお願いします。

（事務局）
＜資料説明＞（省略）

（長谷川会長）
ここで、先ほどから話題にも出ております、本県の海岸清掃にご尽力いただいております公益財団法人かながわ海岸美化財団からパンフレットをご用意いただいておりますので、せっかくの機会ですから委員である松浦代表理事に財団の取組みなどをご説明いただければと思います。
松浦委員、よろしくお願いいたします。

（松浦委員）
お時間をいただきまして、２つの資料をもとに、美化財団のことと海岸ごみのことについてご説明をさせていただきます。
まず、「日本で唯一の海岸美化専門の団体です。」と書いてありますが、どのように唯一で、すごいのかということについて説明させていただきます。冒頭の私の自己紹介でも話させていただきましたが、美化財団は31年前の1991年４月に神奈川県と沿岸13市町によって設立されました。事業といたしましては、１つ目として海岸清掃事業、２つ目として美化啓発事業、３つ目として美化団体支援事業、そして４つ目として調査研究事業を行っています。
海岸清掃につきましては、横須賀から湯河原までの全長150㎞の自然海岸と河川河口部、海岸砂防林の清掃をやっております。美化財団ができる前は、もちろんそれぞれの市町や県でも海岸清掃をされていましたけれども、市や町がする清掃は自治体の区域を超えることができず、藤沢市なら藤沢市の海岸だけ、鎌倉市なら鎌倉市の海岸だけとなってしまいます。実際の海岸というのは、砂浜はつながっていますので、美化財団が設立されてからは、行政区域を超えて、つながっている海岸は一体として清掃することができるようになりました。
この清掃費用につきましては、神奈川県と沿岸13市町から負担金という形で毎年いただいております。県と13市町の負担割合について、年間を通じて実施している通常清掃では、県とそれぞれの市町が２分の１ずつという形になっております。もちろん市や町によってそれぞれ事情がありますので、金額は一律ではなく、それぞれの市町の出せる範囲で頂いており、それに基づいて清掃回数も決めております。そして、市町が出せる金額と同額の金額を県に出していただいております。また、通常清掃以外に、例えば台風などで大量のごみが漂着したというときには、緊急清掃という形で特別に清掃をしておりまして、この費用は全額県が負担しています。こうした清掃で集めたごみは、そのごみのあった海岸の地元の市町の処理施設へ持ち込み、その処分費用は地元の市町に負担いただいています。その他、海岸に不法投棄されたタイヤやバイクのバッテリーのようなものがあった場合には、市町の処分場では処理できないものなので、処理困難物として、海岸管理者である神奈川県の土木事務所に連絡し、土木事務所が産廃事業者に委託をして、産廃として処理していただいております。
このように、沿岸の市町と神奈川県と美化財団で連携のとれた形となっており、それが資料に記載の「海ごみ対策の先進的なモデルケース」と書いてありますように、全国で唯一の仕組みであり、非常にこの仕組みがうまく回っており、海岸がきれいに保たれている形になっております。
海岸のごみは、人がたくさん来るとか、海水浴のシーズンとか、イベントがあるとか、あるいは天候によって雨がたくさん降ったなどにより、日々ごみの状況が変化しますので、年間で清掃

計画を立てていても、それどおりにごみが溜まるわけではありません。日々の状況を把握するために、美化財団の職員は毎日海岸パトロールを実施しています。一つの海岸で週に１回から２回という形でパトロールをして最新のごみの状況を把握するとともに、ボランティアさんが大人数でビーチクリーンをしてくださるという場合には、その前日や前の１週間は海岸清掃を控えるという形で予定を管理して、次の週の清掃計画を立てています。

美化財団が実施する海岸清掃は、財団の職員が実際に行う直営清掃と、一般廃棄物の許可を持つ業者に委託する業者委託清掃の２種類がございますが、それとビーチクリーンボランティアさんの清掃を合わせた３つの清掃の情報を一元管理して、効果的、効率的な清掃を実現できています。これが資料に記載の「３つの清掃を一元管理　効率的な清掃が実現」の内容となります。

さらにその下に記載してあります「毎週海ごみの状況を反映」というところも海岸パトロールの話で、タイムリーな清掃を実現できているというところになります。

美化啓発事業については、資料に令和３年度に実施した情報が記載してありますので、そちらをご覧いただければと思います。学校キャラバンという出前授業を行ったり、企業の研修の受け入れをしたり、講習やワークショップを行ったりしております。

続けて美化団体支援事業について説明させていただきます。こちらは、ビーチクリーンボランティアの支援で、美化財団へビーチクリーンをしたいと御連絡をいただきますと、ごみ袋を申込していただいた方にお送りします。それと同時に、どこの海岸かに応じて、ごみの置場についての地図をお渡ししています。ボランティアをしてくださる方が一番困るのは、集めたごみをどうしたらいいかということで、神奈川県は美化財団が回収してくれるのですごくありがたいと言っていただいています。

資料に「ごみ回収量・ボランティア人数の圧倒的な実績」と記載がありますが、美化財団のサポートにより気軽にビーチクリーンができるというのが、圧倒的な実績になっていると思っております。

新型コロナウイルスの感染が拡大してからは、いろいろと自粛により海岸に入れないなどもあり、ボランティアの延べ人数は激減いたしました。資料にグラフがございますが、今までずっと延べ16万人だったところが、令和２年度は４万人弱と減ってしまいました。昨年度は10万人弱まで戻ってきました。コロナ禍前は小田急電鉄さんがやっていただいていたような１回で1,000人くらい集まるようなイベント型のビーチクリーンがたくさんあり、そのような形のものが全部なくなってしまったことで非常に人数が減ってしまったのですけれども、最近はリモートワークで自宅にいる時間が増えたりしたということで、日常のちょっとした時間にビーチクリーンをしてくださるボランティアさんが非常に増えまして、今年度は13万人くらいに戻るのではないかと思っております。また、人数だけではなくて、個人の件数も増えております。ですから、コロナ禍で、ビーチクリーンはイベント型から日常型に移行してきたのかなというふうに考えております。特に呼びかけなくても、150㎞の海岸各所で、毎日誰かがボランティア清掃をしてくださっているという状況が当たり前になっております。美化財団のような組織は他の都道府県にはないので、神奈川県だけがボランティアが多いとか、比較する情報がありませんが、神奈川県は特に人数が多いのではないかと思っております。

また、資料内に、美化財団のＳＮＳのひとつのFacebookの投稿内容がありまして、一昨年の４月に平塚の金目川の河口部にごみがたくさんあったので、お手すきの方は御協力をお願いしますというように発信しました。その２日後にパトロールに行ったところ、個人のボランティアさん

が人工ごみを集めてくださっており、その後の美化財団の清掃としては、木くずだけになったものをビーチクリーナーで集めるのみになりました。もしボランティアさんがいらっしゃらなければ、木くずまみれの中からペットボトルなどの人工ごみを作業員が手で除いた後にビーチクリーナーをかけることになり、非常に手間がかかるところですが、とても時間を短縮できて、別の海岸もきれいにすることができるようになりました。ボランティアさんと美化財団とがＳＮＳを通じて連携して非常に効果的な海岸清掃が実現できているという事例になります。

調査研究事業については、資料の記載のように、海岸ごみの発生状況の調査研究をしております。資料記載のグラフは、川から来たごみが７割ということを表しています。海岸清掃というのは出口対策であり、川から流れついたごみを海岸で拾うだけでは根本的な解決策にはなりませんので、入口である街とか川のごみを減らさないと海岸ごみはなくならないと思っております。

また、海岸ごみの中の人工ごみの内の６割がプラごみになっておりまして、特にペットボトルとかトレーやお菓子の包装といった容器包装のプラスチックごみが非常に目立ちます。対策としては、街や川の清掃だけではなくて、ごみを出さないこと、使い捨てプラスチックの使用削減が非常に重要だと思っております。

私がいろいろな企業の方とお話する中で、ペットボトルを始めとしたプラスチックのリサイクルを進めていますと言ってくださる方が多く、プラごみ削減のために非常によいと思うのですが、海岸でごみを拾うと、100％リサイクルプラと書かれているペットボトルが落ちており、リサイクルされた後のプラが結局不法投棄されると海岸ごみは減らないので、海洋プラスチックごみ対策というものは、リサイクルとは別の視点で考えていく必要があるかなと個人的には思っております。

余談ですが、先日福島県のいわき市でビーチクリーンの関係のシンポジウムが開催され、神奈川県が海ごみ対策のモデルケースということで、美化財団の職員が話をしてきました。いわき市の他に西表島などからも参加されていました。お話しを聞くと、いわき市ではボランティアがビーチクリーンをして集めたごみを処分場へ自分たちで持ち込むと、処理費用は市の負担で受け入れているそうなのですが、神奈川県でいう処理困難物といった漁網とかブイなどは持っていっても処理できないから持ち帰ってくださいと言われ、海岸管理者である県へ相談すると、部署によっては津波などの安全対策に力を入れていることからごみの処理までは手が回らないと言われ、結局海岸に放置しておかなければならないということになってしまうそうです。

西表島では、島内に処理施設がないため、近くの石垣島までボランティアさんが船で持っていかなければならないのですが、その運搬に係る費用は自己負担だそうです。石垣島の処理施設へ持ち込めば、処理費用は石垣島で負担してくれるそうなのですが、船で運搬する費用はボランティアさんで負担しなければいけないことから、ビーチクリーンをしようと思ってもお金がかかるということで、神奈川県は恵まれていますねと言っていただきました。

これは、美化財団がすごいというのではなくて、美化財団という仕組みを作った神奈川県と13市町が素晴らしいなと思っております。そして、神奈川県の海岸はテレビや映画の撮影によく使われており、その撮影に携わる方が「神奈川の海岸はごみがなくて非常にきれいですね」とおっしゃるのですが、私たちからするとごみはあるのですが、ボランティアさんや美化財団の清掃の仕組みでごみがあってもすぐにきれいになるので、ごみが海岸にある時間が非常に短いことから、海岸にいらした方にごみが少ないと思っていただけているのだと思います。

このように、神奈川県と沿岸13市町の連携、そしてたくさんのボランティアさんのおかげで、

美化財団を中心とした海岸清掃の仕組みができており、神奈川県の海岸がきれいになっているという状況でございます。

（長谷川会長）
松浦委員、ありがとうございました。
続きまして、かながわプラごみゼロ宣言の関連事業について、事務局から資料の説明をお願いします。

（事務局）
＜資料説明＞（省略）

（長谷川会長）
先ほどの説明にもありましたように、かながわプラごみゼロ宣言の関連事業につきましては、ご賛同いただきました団体様、企業様のご協力のもと、進めているところでございます。この協議会の所掌事務である美化活動及び不法投棄対策に関しても、プラごみゼロ宣言に関連する事業として推進してまいります。それでは、美化活動や不法投棄対策につきまして、忌憚のないご意見やご提案をいただければと思います。

（野田委員）
美化財団の取組みの説明の中で、コロナ禍でイベント的な活動から日常的な活動へということで、私の周りでもそういう方が増えており、それは非常によい活動だと思っております。
美化財団がいろいろなところで毎日活動をされているということを私は承知しておりますけれども、私の住まいの目の前が海岸で、美化財団がいらしているときにどのような形で活動をしていらっしゃるのかを拝見したところ、職員の方が海辺で清掃していますが、美化財団が活動しているということがそこにいらっしゃる方たちにも見えてこない。せっかく毎日いろいろなところで活動していて、そういう活動の場を目にする市民県民の方がいらっしゃるので、そこをＰＲしていくということで、美化財団という形が分かるようになるとよいと思います。例えば、ユニフォームではないですけど、職員の方はそのようなジャンパーを着ているのですが、作業する方はその時は着てなかったかと思います。また、せっかくなので、清掃活動をしているときに海岸に遊びに来ている方への啓発として、リーフレットをお渡しするとか、何かプラスアルファの活動をされてはどうかというのを感じました。
先ほどおっしゃったように、30年近い美化財団の活動が、なかなか県民の方にも理解されていなくて、海の掃除をしているのかな、市の職員なのかなといった雰囲気がありますので、啓発という活動にプラスアルファをしていただくのもよいのかなと思っております。
また、もう一つ聞きたいのが、毎年海の家の時期には、ごみ問題について私もいろいろな方から伺いますが、公園とか海岸とかでごみ箱が撤去されていますよね。そこに賛否があると思うのですけれども、ごみ箱がないから遊びに来た人がごみを置いて行ってしまう。ただ一方で、ごみ箱を置いてしまうと、日常生活のごみも置いてしまうという。このようなメリットもデメリットもあるのでどのような取扱いにすべきか、というところだと思います。海外ではごみ箱についておしゃれにしたり、面白くしたりする展開をしているので、ごみ箱の設置という一つのアイデア

も工夫して何かしていただきたいと思います。
　それとドローンについて、昨年からスピーカー付きで呼びかけをしていますが、実際効果としてあったのかについて伺いたいです。また、どのような形でやられているのか、お聞きしたいです。ごみを捨てるような雰囲気があれば、スピーカーでだめですよというような形でしょうか。

（長谷川会長）
　ありがとうございます。それでは、３点ほどあったかと思いますけれども、まずはドローンの効果について事務局からお願いします。

（事務局）
　ドローンにつきましては、昨年からスピーカー付きのもので呼びかけをしながら回っているところです。私自身も何回か現場の方にいかせていただき、さすがにそのときにごみを捨てる人を目撃したことはございませんでしたが、その効果についてはおっしゃるとおり測るということがこの事業は難しいと思っておりまして、呼びかける前と後でごみが減ったのかどうか、今はそこまでの効果測定はできておりません。そのような労力に対する効果がどれほどあるのかということについては、検討課題だと思っているところです。

（野田委員）
　それは夏場に、人が集まるような海岸の上空で「皆さんごみを持ち帰りましょう」というようなアナウンスをされている感じでしょうか。

（事務局）
　そのような感じです。１ヶ所30分くらいの時間で呼びかけをさせていただいております。

（長谷川会長）
　補足をさせていただきますと、ドローンを導入する前は、職員が海岸へ赴き、利用者へ声をかけていました。そのような意味では、職員の仕事量でいえば、かなり効率的になっています。
職員が一人ひとりに声をかけるよりは、ドローンで上から声をかけた方が一度に広い範囲に声をかけられますので、そのような意味では効果はあると思っております。ただ、ごみがどのくらい減ったかどうかについては難しいと思っております。
　では、美化財団の清掃時のＰＲについて、松浦委員お願いします。

（松浦委員）
　おそらく清掃を委託している事業者が清掃しているときにご覧になられたのだと思いますが、委託事業者も美化財団の職員も海岸へ行く際はビブスを着用しており、「海岸清掃中」、「パトロール中」、「美化財団」と書かれたものを身につけているのですが、遠くからご覧になられる方だと、美化財団というのはわからないかもしれません。ただ、清掃中にチラシとかを配るのは、委託業務の範囲外になってしまいますし、配られた人が捨てるとごみになってしまいますので、啓発としては別の形で行っていきたいと思います。

（長谷川会長）
ごみ箱問題についても賛否両論があると思いますが、松浦委員からご意見をお願いします。

（松浦委員）
13市町のほとんど全ての海岸からごみ箱は撤去されていまして、それはそれぞれの地元の市町と美化財団で話合いをしながら撤去をしています。なぜかというと、不法投棄が多く、遊びに来た方が捨てるだけでなく、家庭ごみを捨てる方や、ペットの散歩中にごみを入れる方などもいて、場所によっては９割くらいのごみが不適切なものだったりしました。本来のボランティアさんが集めたごみをいれるという趣旨と違うごみが入ってしまっていました。ごみ箱を撤去した後、その場所に、家庭ごみが置かれてしまうといったようなことはなく、非常によい状態となっております。
海水浴シーズンでは、それぞれの市町の判断で、市町の負担で海水浴客向けのごみ箱を置いているところがあります。ボランティアさんから、ちょっと拾ったペットボトルを捨てるためにごみ箱を置いてくださいとお話しいただくこともあるのですが、ごみ箱があると、ごみがごみを呼ぶような状況になって、ごみを持って帰ろうと思っている人もごみ箱があれば捨てていいかと考えてしまうと思いますので、今はない方がよいかと思っております。

（野田委員）
この辺の課題というのは、難しいですね。
灰皿とかもいろいろなところで撤去がされている中で、結局たばこは捨てたら海へ行ってしまう。海外のＮＰＯが調べたら、プラスチックごみとしてたばこのフィルターは、ものは小さいけれども量としてはかなり多いというような状況で、私も１か月以上実験したのですけれどもそのフィルタープラスチックはほとんど溶けないというような状況でしたから、やはりごみ問題は一人ひとりの意識であり、そこをどういう形で変えていくかというところが課題かと思います。

（松浦委員）
海外に視察に行かれた方や、海外のことを知っている中学生などから、ヨーロッパは街にごみ箱がたくさんあるから街がきれいであるので、ごみ箱をいっぱい置くべきだという意見をいただくこともあるのですが、そのような方たちは、ごみ箱のごみを誰が処理して、そのお金がどこから出るのかということを考えていないだろうなと思うことがあります。
ごみ箱を置くだけじゃなくて、置いたらそのごみを回収するために人手とお金がかかるので、ごみ箱を置くことでごみの回収と処理に税金がかかりますけどどちらがいいですか、ということも考えていただきたいと思います。

（河合氏）
相模川の神川橋の下に行くと、ＢＢＱのごみが山ほどあり、大体草むらなどの見えないところに捨ててあります。確かにあれだけの量を持って帰れるかというと個人的には疑問で、持って帰らずに置いていってしまうのではないかと思います。悩ましい問題ではあるけれども、もう少し違う切り口でアプローチしないと、変わらない気がしています。あのままですと、ＢＢＱを禁止するしかないという感じになってしまうと思いますので、何を大事にするかということですね。

また、プラごみゼロのテーマがまだよくわかっておらず、放置ごみをゼロにしようとしているのか、焼却ごみもだめなのかよくわかっていないところです。

例えば、拾ったごみは全部焼却ではなくて、プラごみは再生されればいいのだけれども、今は拾ったごみは基本焼却されてしまっている。そうすると拾えば拾うほどごみが増えてしまうという状況で、持って帰るというのも非現実的な気がしているというのが私の感想です。

（長谷川会長）

ありがとうございます。他にご意見はありますか。

（西委員）

資料７ページのかながわプラごみゼロ宣言の関連事業というところの下から４行目に、現在２箇所でペットボトル回収に関する実証実験を行ったとありますが、どのような実証実験を行ったのか簡単でいいので教えてください。

それともう一つ、同じページの上の方、「１　かながわプラごみゼロ宣言」の５行目のところで「平成30年９月に」とあり、その次の行では「2030年のできるだけ早期に」とありますが、西暦で統一していただけるとわかりやすいなといつも思っております。全部は難しいかもしれませんが、ぜひ西暦と併記していただけるとありがたいなと思います。

（長谷川会長）

ありがとうございます。では、事務局の方から回答をお願いします。

（事務局長：矢板資源循環推進課長）

ご指摘ありがとうございます。かながわプラごみゼロ宣言を発表しましたのは2018年でして、2030年がＳＤＧｓのゴールの年ということで、そこまでにリサイクルされない、廃棄されるプラごみゼロを目指しております。

質問のありました実証実験ですけれども、小田急電鉄さんの場合は、駅構内のごみ箱のところに３分別ができるようなごみ箱を設置し、車内での広告や呼びかけをしていただいて、その呼びかけをする前後で、どれぐらい３分別されるペットボトルが増えるのかという実験でございました。これは駅ということで一般の利用客を対象とした実験でございます。

河西工業に関しては、これは工場ということで従業員が対象となり、同じように３分別のごみ箱を置いて、いろいろと社内に呼びかけをしていただいて、実験を行いました。

結果としましては、駅のところでは１％に満たなかった３分別が最大で３割程度まで上昇し、事業所内の方では96％とほぼ100％まで上昇しました。やはり駅だと急いでいる利用客がいるので、そういったところの課題がありますけれども、それでも３割まで上がっております。このように、ごみ箱を準備して呼びかけを行うことで、３分別をされるようになったことから、事業所内であれば非常に効果的で、３分別で水平リサイクルにもっていけるような状態であるというのが結果となります。

（西委員）

わかりました。

（長谷川会長）
他にご意見のある方はいらっしゃいますか。

（豊田氏）
美化財団にお伺いしたいことがあります。
エリアが湯河原から横須賀市の走水海岸までということで、そこから先には横浜市や川崎市があり、川崎市に海岸があるかということはありますけれども、横浜市と横須賀市の走水海岸までの間のところにも小規模ながら砂浜、海岸があります。そこではどうしたらいいでしょうか。
例えば、そこでごみ拾いをしても、美化財団では対応できないということでしょうか。

（松浦委員）
私どもが対応しているのは自然海岸でして、走水海岸から湯河原海岸までの間でもマリーナとかがあり、管理するところが決まっている場所では美化財団の清掃の範囲ではありません。横須賀市の走水海岸から北の方というのは、公園などがあって、その北は米軍基地や自衛隊があり、自然海岸がありません。
横浜市と川崎市は埋立海岸がありますが、自然海岸ではないので美化財団の範囲外になってしまいます。
県では、横浜市や川崎市の埋立海岸で清掃する場合は、市に相談するように伝えているのでしょうか。

（長谷川会長）
そうですね。基本的には管理者がいるところが相談先になりまして、民間の工場である場合もありますし、あと市が管理している港湾関係とかもあります。縦割りになってしまって申し訳ないのですけれども、一括してまとめているところはなくて、それぞれの管理者、港であれば港湾管理者に連絡いただくという形になっております。

（豊田氏）
例えば、美化財団さんにエリア外のところでごみを拾う際に、処理をお願いできるところとつないでいただくことはできないのでしょうか。

（松浦委員）
横須賀市の走水海岸から湯河原町までの間であれば、マリーナとか管理しているところをご案内できます。横浜市や川崎市はつながりがないので、どちらかというと県の方が、つながりがあるのではないかと思います。

（豊田氏）
できればつながりがなくてではなく、つながりを持っていただきたい。かながわ海岸美化財団と「かながわ」がついているのですから、美化財団さんにハブになっていただいて、美化財団さんに連絡すれば、「ここへ連絡してください」くらいのつなぎをしていただきたいです。
私たちの活動で今後走水海岸より北へ行く際に、ごみは持って帰らなければならないのかなど

考えてしまうことになりますので、横浜市の担当部署や川崎市の担当部署を私どもで調べてもよいのですけれども、情報源として美化財団さんから情報をもらえるような仕組みがあれば、もっと多くの人たちがボランティアとして清掃に参加してくれるのではないかなと思います。

（松浦委員）
　美化財団から情報を発信はできないと思いますけど、お問い合わせいただいたらお答えできるようにしたいと思います。

（豊田氏）
　ありがとうございます。

（事務局長：矢板資源循環推進課長）
　神奈川県の方も、横浜市内や川崎市内などの政令市内になりますとそれぞれの市のこととなりますが、県の方でもこのような要望をいただいたということで、ご相談していきたいと思います。

（豊田氏）
　お願いいたします。

（長谷川会長）
　それでは、次第５の神奈川県美しい環境づくり推進協議会の今後の在り方の検討状況について、事務局から資料の説明をお願いします。

（事務局）
＜資料説明＞（省略）

（長谷川会長）
　説明のとおり、事務局におきまして、当協議会の今後の構成について提示させて頂きました。
　これを踏まえまして各委員の皆さまからも、今後の協議会の在り方について、忌憚のないご意見やご提案をいただければと思います。

（長谷川会長）
　特にご意見がありませんでしたので、このような形で今後調整を進めさせていただきますので、引き続きよろしくお願いいたします。
　全体的に何かご意見やご提案がありましたらお願いします。

（野田委員）
　１点教えていただきたいことがあります。
　８市連携海洋プラスチックごみ削減キャンペーンというものがあり、横浜市、川崎市、横須賀市、鎌倉市、藤沢市、逗子市、大和市、町田市で行っていますが、これは８つの市が連携して行っていて、県は関係がないということでしょうか。

（事務局長：矢板資源循環推進課長）
　県では、そのキャンペーンに携わっていません。

（野田委員）
　協賛とかそういうのもないのですね。せっかく８つの市が連携しているというところで、県も協賛して輪を広げていくとか、サポートをしていただければと思ったのですが。

（長谷川会長）
　県が関わる何かがきっかけとなって、その後自治体それぞれに広がっていくこと、その第一歩が県の役割なのかなというふうにも思っております。
　なかなか全てにおいてタッチするというのは難しいところがありますが、いろいろな情報を集めながら調整していきたいと思っております。

（松浦委員）
　海洋プラごみでいえば、県西地域の２市８町でプラごみゼロ共同宣言をしています。その地域は川でつながっているということで、県が音頭をとらなくても、地元でそういうことができているというのはよいと思います。

（野田委員）
　そうですね。音頭をとるとかは置いておいて、このようないろいろなところで行われている活動に県も関わっていただきたいです。

（松浦委員）
　県内で行われているのは全部でこれだけ、というような情報として県が持っているといいですね。

（長谷川会長）
　そうですね。
　皆さま、ご意見ありがとうございました。本県におきましては、かながわプラごみゼロ宣言に基づき、美化活動の推進及び不法投棄対策について推進してまいりますので、各委員の皆さまも引き続きご活動及び、本県事業へのご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。
　それでは、進行は事務局に戻させて頂きます。

（事務局長：矢板資源循環推進課長）
　皆様、熱心にご議論いただきましてありがとうございます。
　これを持ちまして、本日の協議会は閉会とさせて頂きます。
　長時間にわたりありがとうございました。